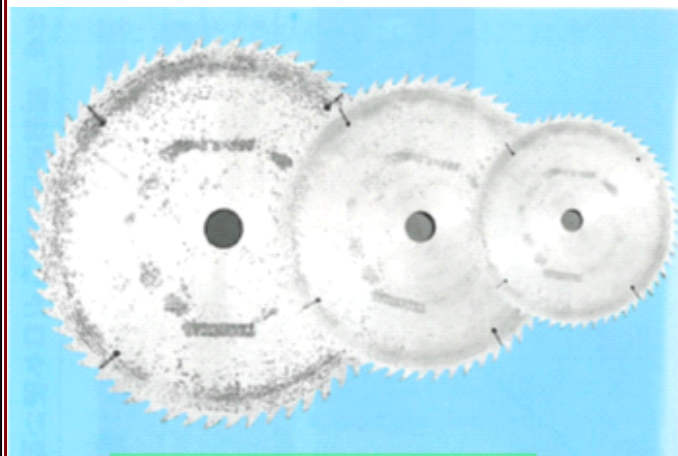


## 会員だより



### ミシンや服より/コギリだ! 南洋群島(ロタ島)帰りの製材所



### これが丸のこぎり

戦災を受けた沖縄では必ず製材所が要る!  
島からの引き揚げ船に、家財道具のすべてを捨てて丸ノコだけを担いできた祖父。「服やミシンは捨て

仲程土建株式会社  
代表取締役 仲程 俊郎

るんだ。この丸ノコだけ持って帰ればよい。これさえ有れば、どこでも食っていけるんだ。」  
昭和 21 年 1 月 25 日、マリアナ諸島最後の引き揚げ船が、ロタ島の 300 名を乗せて出発する前、祖父 仲程 亀吉(当時 50 歳)は長男 実輝(元宜野座建設社長)、次男 実湧(仲程土建創業者、元宜野座村長)、三男 實(仲程土建会長)ら家族達にもこう厳命して、製材関係以外のものはすべて捨てさせた。運良く戦災をまぬがれた、亀吉の製材工場にあった直径 1メートル、重さ 5 キロもある丸ノコ 3 枚と、5 個で 15 キロもあるメタルを命の次に大事にするように毛布にくるみ、暗い船倉に運び込み沖縄に持ち帰った。戦争で焼け野原となった沖縄では、住宅はほとんどない。製材所は重宝がられ、戦後の住宅建設に、沖縄の復興と発展に寄与したのである。  
昭和 23 年、仲程 亀吉は那覇市沖映通りのガープ川の橋ぎわに製材所設立し、その後、栄町と大道に 2 号店と 3 号店を開業した。また、旭トラックを設立し製材を運搬、宜野座村からは薪を積んで、那覇市の安里の間屋に卸し、帰りはバス代わりに乗客を運んだのが今の宜野座運送の始まりである。また、元南海建設社長の有木寛治氏の父親と、二見タクシーを設立した。その後、合資会社仲程建設を設立し現在に至っている。

## 会員だより



宮古島市では、数年前からほ場整備が盛んに行われており、弊社も 24 年度に松原地区ほ場整備工事を担当させて頂きました。  
宮古島でのほ場整備工事の特徴は、ほ場整備地区内(13.4h)で掘り出した石を使って石積み擁壁を設置し、ほ場の区画割りを行っていることです。  
施工前は普通の赤土の畑で石などほとんど目につきませんでした。いざ施工すると赤土の下から大量の岩が出てきました。地元の業者さん達はただ単に石を積み上げるだけでなく、石の面をバックホウのバケットのツメでひたすら平らにの仕上げ、その石を積み上げどんどん石積み擁壁を設置していきました。どこ掘っても石が出る宮古島ならではの工夫だと感心しました。  
完成してみるとまるで城壁に囲まれた畑のような景観になっていました。各区画によって耕土が少ない区画・多い区画、岩が少ない区画・多い区画まちまちでしたが、発注者及び施工業者の縦・横の連携が構築されていて、耕土・岩の譲り渡し、譲り受けがスムーズに行えました。  
また、10ヶ月間の工期を無事故・無災害で終わっ

株式会社高橋土建  
監理技術者 平良 恵安

たことに感謝致します。



施工前



施工後



## ①第83回 道路美化・清掃活動

## 活動報告・トピックス

## ②第11回 安全講習会

### ああ 暑かった!水がおいしい!

第 83 回道路美化清掃活動を、7 月 16 日(火)に 15 社 18 名の参加者で実施しました。強烈な陽ざしが降り注ぐ中、厳しい暑さにもめげず、清掃活動に汗を流しました。熱中症対策で塩飴とスポーツドリンクを用意され、各々、清掃作業に取り組んでいました。



暑~い中お疲れ様でした!

### 魂をゆさぶるような 各リーダーたちの言葉

- 石岡常一(宮大工、薬師寺金堂再建)

「うまい大工の動きには無駄がない。見習うとはよく言ったもの。仕事は見て覚えるものだ」

「人に聞いたらじきに忘れる。木と対話して仕事しなはれ。」



### 今月の主な活動予定

- ① 8 月 6 日(火): 第 1 回正副委員長会議  
11:00 ~ 13:00 於: 支部会議室
- ② 8 月 20 日(火): 第 84 回道路美化・清掃活動  
前半グループ
- ③ 8 月 27 日(火): 第 2 回幹事会  
11:00 ~ 13:00 於: 支部会議室

### 安全対策は先取りで!

第 11 回安全講習会が 7 月 25 日(木)午後より浦添市産業振興センター「結の街」3 階大研修室において開催されました。講習会には 22 社 67 名の参加がありました。  
講習会は 3 部構成となっており、第 1 講は、沖縄労働局健康安全課課長補佐の幸地光彦氏が「建設現場における安全管理」と題して、また、第 2 講では沖縄総合事務局開発建設部工事検査官兼監査官の平良博孝氏が「沖縄総合事務局開発建設部(港湾系除く)平成 24 年度の事故の状況分析」と題して、講義を行いました。3 講目は、沖縄 RST トレーナー会代表田端千裕氏が「今 何故 リスクアセスメント」と題して、工事現場における指示の曖昧さ、仕事への慣れなどの事故の要因を指摘し、リスクアセスメントの重要性を強調、注意を呼びかけました。  
なお、講習会資料は会員各社にメールにて送付していますので、社内研修などに活用して下さい。



講師の言葉に真剣に聞き入る!

### 編集後記

広報委員長  
座波建設(株)座波隆司

広報委員長になって、あっという間に 1 年が過ぎました。石垣前事務局長と会員のおかげで「支部だより」を毎月発行することが出来ホットしております。  
私見ですが、なぜ?と思うことがあります。車で恩納村多幸山を越え、きれいな海が眼下に見えたと思いきやゆるい坂を下りると、左側に見えるはずの海の景色が堤防に邪魔されて、コンクリートの灰色しかドライブ中見ることができません。観光立県沖縄の道路造りとしてはどうにかならないものかと思案しておりました。パラペットを 50cm 低くできないものか、あるいは道路をあと 1m あげられないかなどと考えています。会員各位良い方法はないものではないでしょうか?観光客に沖縄の海を堪能できるように頑張っていきたいと思います。